Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SSS28-03 会場:103 時間:5 月 27 日 16:45-17:00

式根島における隆起貝層からみた後期完新世の隆起:1498・1605 年の大津波の波源域に関する含蓄
Late Holocene uplifts of Shikine Island on the northern Zenisu Ridge off Central Japan

今井 啓文 [1*] ; 北村 晃寿 [2] ; 伊藤 真実 [1] ; 宮入 陽介 [3] ; 横山 祐典 [3] ; 山口 寿之 [4] ; 杉原 薫 [5] ; 安藤 雅孝 [6] ; 三井 雄太 [2] ; 金 幸隆 [7] ; 中村 衛 [8]
IMAI, Takafumi[1*] ; KITAMURA, Akihisa[2] ; ITO, Mami[1] ; MIYAIRI, Yosuke[3] ; YOKOYAMA, Yusuke[3] ; YAMAGUCHI, Toshiyuki[4] ; SUGIHARA, Kaoru[5] ; ANDO, Masataka[6] ; MITSUI, Yuta[2] ; KIM, Haeng yoong[7] ; NAKAMURA, Mamoru[8]

[1] 静岡大学理学部, [2] 静岡大学理学研究科, [3] 東京大学大気海洋研究所, [4] 神奈川大学, [5] 国立環境研究所, [6] 静岡大学防災総合センター, [7] 神奈川県温泉地学研究所, [8] 琉球大学理学部
[1]Institute of Geosciences, Shizuoka University, [2]Faculty of Science, Shizuoka University, [3]Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, [4]Faculty of Science, Kanagawa University, [5]Center for Environmental Biology and Ecosystem Studies, National Institute for Environmental Studies, [6]Center for Integrated Research and Education of Natural hazards, Shizuoka University, [7]Hot Springs Research Institute of Kanagawa Prefecture, [8]Faculty of Science, Ryukyu University

2013 年，国から「南海トラフの地震活動の長期評価の第二版」が公表され，フィリピンプレート内の遠州灘～銭州海嶺付近～新島・神津島付近～相模トラフのどこかにも，巨大地震の震源域に含まれる領域が存在する可能性が示唆された．一方，伊豆半島沖の式根島では，福富 (1938) が離水貝層を発見し，約 3 m の隆起が起きたことを報告していた．この隆起をもとに羽島（1975）は，1498 年の明応地震 (M8.6) の津波波源域を東海沖～伊豆半島南方沖と推定した．また，相田 (1981) は明応地震とともに 1605 年の慶長地震の津波波源域を東海沖～伊豆半島南方沖に置いたモデルを提示した．これに対して，太田ほか (1983) は島内 3 か所で離水貝層の 14C 年代を測定し，約 1400 年前に隆起したことを明らかにし，上記の仮説を否定した．だが，最近，中田ほか (2013) は，神津島から銭洲を経て浜名湖沖に達する銭洲海嶺の南縁に沿う銭洲断層系活断層 (全長 275 km) が，明応地震の震源断層の可能性を指摘している．こうした状況を踏まえ，本研究では，先行研究よりも遥かに高精度の年代決定を可能とした加速器質量分析装置で，式根島の隆起貝層の ^{14}C 年代を測定し，1498 年明応地震の津波および 1605 年の慶長地震の津波の波源域としての東海沖～伊豆半島南方沖の可能性を検討した．その結果，以下のことが明らかとなった．

1．本研究で式根島において，新たに 4 地点で離水生物遺骸を発見した．
2．年代-高度分布から，隆起貝層は 3 つのグループに分けられ，これは過去 1000 年間に 3 回の突発的隆起事件が起きた可能性を示唆する．
3．隆起事件の年代と最大隆起量は，西暦 1120-1400 年で 0.4 m，1530-1890 年で 1.8 m，1860-1950 年で 1.0 m，と見積もられる．
4．西暦 1858-1950 年の隆起は，式根島の南東沖で起きた 1890 年の地震による可能性が高い．
5．西暦 1120-1400 年と 1530-1890 年の隆起は，1498 年明応地震の津波および 1605 年の慶長地震の津波の波源域としての東海沖～伊豆半島南方沖の可能性を支持しない．

キーワード: 式根島, 隆起貝層, 後期完新世, 隆起, ^{14}C 年代
Keywords: Shikine Island, Emerged marine sessile assemblages, Late Holocene, uplifts, ^{14}C dating